

ナビゲーターからのメッセージ

これまでの宇宙カフェでナビゲーターをしていただいたみなさんから、メッセージが届きました。

やったー！50回

吉住千亜紀

ホントに50回目がやってくるとは…！
それも宇参加者のみなさんのおかげです。
本当にありがとう宙研の先生やスタッフの
方々、ございます！

後藤 千晴

宇宙カフェ、50回ですか！？すごいですね！

何か自分で50回も続けたことがあるかなあと考えると、たぶんないような気がします。後藤さん、吉住さん、関係者の皆さま、ほんと、お疲れ様でした。

ところで、この宇宙カフェ、いつ始まったんだろうと考えてみると、2011年7月からだったんですね。そのきっかけが1年前の「はやぶさ」の地球帰還だったんですね。2010年4月に和歌山大学に宇宙教育研究所が出来、そして6月にあの「はやぶさ」が地球に帰還した年でした。

あれから5年・・・大学改革の嵐が益々激しくなっていますが、弱小組織の宇宙教育研究所は潰れずになんとか生き残っています。その大きな理由の1つが、ここに何度も足を運んでいただいている皆さんの声援だったかなと思っています。

宇宙カフェは今後はペースを落として開催していきますが、引き続き、和歌山大学の宇宙教育研究所をご支援よろしくお祈りします。

尾久土正己

宇宙カフェ、50回目の開催おめでとうございます。
今までたくさんの方に笑顔と感動をお届けしていたこのカフェも、なんと50回目を迎えたということで、元まちかどスタッフとしては、すごくすごく嬉しく思うと同時に、私がいた時の思い出が一気にフラッシュバックして懐かしい気持ちでいっぱいになりました。

当時はまちかどで初のカフェ運営ということで、上手くいくことばかりではなく、大変なこともたくさんありました。カフェを開催するにあたり一番の不安は、参加者はどれくらい集まってくれるのかということ。女性スタッフだからこそ思いつく心配り、可愛くおしゃれなカフェにするにはどうすればいいのか。飲み物からお菓子、机のレイアウトまで、たくさんの工夫を後藤さんと2人でアイデアを出し合い、本番に備えました。準備が大変な分だけ、成功したときの嬉しさは大きく、次回開催への自信にもなりました。思い出すこと、みなさんにお話したいエピソードは、たくさんありますが、長くなりますので、ここまでにしておきますね。

パラボラアンテナや、はやぶさ、ブラックホールなど、計り知れないほどの大きな宇宙をテーマにしたこのカフェ。こんなにも夢のあるカフェの歩みに、少しでも携われたこと、本当に嬉しく思います。本当におめでとうございます。

本来ならば直接お祝いに伺うべきところ、書面でご挨拶になってしまい申し訳ございません。今後も、たくさんの感動と笑顔を届けられるようなカフェであり続けることを願っています。もちろん、目指せ100回目！！

元まちかどサテライトスタッフ 東條 更紗

みなさまこんばんは。節目の第50回に顔を出したかったのですが、残念ながら、ある学生プロジェクトの付き添いのため北海道に滞在中です。

私がナビゲーターを務めましたのは計5回でしょうか。どんなことをやってきたのかなと、まちかどサテライトのウェブサイトの過去ログを掘り返してみたのですが、初期の頃のカフェの模様として掲載されている写真の私の姿の若いこと。

いやー、本当にこの数年でだいぶ白髪も増えましたし、今月6日には不惑を迎えまして、すっかりおっさんになってしまったなあという思いです。そろそろ若作りにも無理が出てきました。何より体型が…

さてカフェイベントは研究者と参加者が「対等に」コミュニケーションする場である、と言われます。私はこのカフェイベント（サイエンスカフェ）という場そのものに興味を持っていて、その意味では、毎回「実験」をさせて頂いたわけですが、実験の重要な要素の一つは、テーマ設定でした。刺激的なテーマ設定をせよ、と物の本には書かれているのですが、単にセンセーショナルなだけでなく、あえて自分が困ってしまって恥をかくような、自分のキャパシティを超えるテーマ設定をすることで、「誰にも答えがない」空間を作ることが、「対等」を生み出すのではないかと、この思いがあったからです。宇宙カフェでは私自身の研究を全否定されかねない厳しいお言葉も頂きました。テーマ設定がうまくいった証拠なのですが、なかなかつらいものです（笑）

そんな試行錯誤の中で、最近「オープン・マインドであること」のようなものをつかめそうな気がしています。その場に偶然発生した音楽の流れで勝負するジャズ・ミュージシャンたちが好んで使う言葉でもあります。知らないこと、できないこと、わからないことに出会っても、知っていること、できること、わかる範囲のことを、気取らず背伸びせず自然に行う。自信の有る無しと関係なく、気持ちがオープンでなければできません。かと言って単に何でもかんでも開けっぴろげというわけでもないのですが、ともかく、そうやっている中で、中串孝志という「ひと」がポロっと出てしまうことも含めて、カフェのコミュニケーションなのかもしれない、と思います。そんなカフェイベントに携わる以上、ポロっと出てしまっても大丈夫な自分作りに平素から努めなくてははいけないなあ、と思う次第です。

今後とも宜しくお願いします。

中串孝志

【吉川さんへ】

今日は素敵なお話を直接伺うことができず、大変残念ですが、太陽系数十億kmを越えてお話できるのなら、私から吉川さんへの思いも、この地球上なら、難なく届くはず（？）、ですね！

これからも楽しいお話、たのしみです！また、どこかで！

今日は宇宙カフェ、どうか、よろしくおねがいします！

【宇宙カフェ50回に寄せて】

なにごとにも継続というものが、とっても難しいのに、この宇宙カフェも50回の節目を迎えましたか。

宇宙の旅は、長い！だから、これも一里塚。これからも、宇宙の旅を続けるためにも、宇宙カフェの旅が続きますように！

富田晃彦



宇宙カフェのみなさま

宇宙カフェ 50回目！ おめでとうございます！！

皆様、お久しぶりです。和歌山大学宇宙教育研究所で働いておりました、小谷朋美です。宇宙カフェでは、3回、お話しする機会をいただき、超小型衛星UNIFORM1号機の地上局について等、ご紹介させていただきました。

現在は、アメリカの、フロリダ、デイトナビーチ市にある、エンブリーリドル航空大学で、白色矮星、B型準矮星など、星の一生の中で、私たちの太陽よりも後期の星を観測をして、それらの星の周りを回る惑星の研究をしています。

また、皆様とご一緒できる機会がいつかあればと思います。今後ともなにとぞよろしくお願いいたします。

小谷 朋美
Research Assistant Professor, Dept. Physical Science
Embry-Riddle Aeronautical University



教室からとった風景です。フライトトレーニングの授業で使われているデイトナビーチ国際空港と飛行機が見えます。

いつの間にか50回続いているというのはすごいですね！皆様の取り組みに敬意を表します。私は2回しか参加できていませんでしたが、楽しい思い出です。もっと参加しておけばよかった・・・。

宇宙カフェも宇宙教育研究所も今後のご活躍を期待しております。

藤垣元治 (福井大学)

50回記念、心よりお祝い申し上げます！

そのうちの50分の2を担当させていただきましたことを光栄に思います。世にサイエンス・カフェ、宇宙カフェと呼ばれるものはいくつもありますが、様々な角度から天文の世界へとアプローチしてくれる、ゆるやかで優しい、素敵な和歌山大学の宇宙カフェ。

不定期開催になるとのことですが、今後もますます発展されていくことでしょう。お声がかかればいつでも参上しますので、また、呼んでくださいね！

古屋 昌美 (伊丹市立こども文化科学館)